



私の苦心

経営理念と会計事務所

税理士法人AKJパートナーズ社員税理士

藤田 学



準に沿って指導ないし取りまとめ、税金を計算し、経営者にとって経営判断に食

管理理念は考えのベクトルとなり思考をそちらに向かわせる。一つの判断基準・行動指針となり、大きな不一致が起きることを防ぐことができていると考えられる。

ここでジェームズ・C・コリンズとジェリー・I・ポラスの有名な著書「ビジョナリー・カンパニー」からの一節を紹介したい。

経営理念の考え方に誤解がないようにだが、この著書の中で、経営理念について不可欠な要素は無いとされている。すなわち、経営理念の内容よりも、その経営理念が本物であり企業がどこまで理念を貫き通しているかの方向が重要と記載されているのだ。

さまざまな会計基準の採用、複雑かつ改正されていく税制、経営者の高齢化による事業承継相統問題と会計事務所に要求される社会的責務はますます重要性を帯びてくると推測される。ひいては職業的専門家とはいえ、さらに個々が特化していく必要があると考えられる。さりとて、新しい仲間から教えていくことは到底できない。できることは経営理念を伝えていくことであり、これを怠れば、不平不満が出てくる結果を招かざるを得ない。悪循環を生むリスクをはらむ。仲間には経営理念があることの大事さをまずは理解してもらい、その仲間に経営理念が示す方向を共有してもらうよう努めようと常に考えている。

現在、総勢30人、さまざまな個性が存在する。個が有する強み弱みもまた非常にさまざまである。私が全ての顧問先様に目が届くわけではない。代表社員として同じであろう。週に1回の定例ミーティングは事務所で行っている事象を共有する大事な時間である。ただ、特に細かく対応を指示するわけではない。経営理念が土台となり支えていることが大きいと考えている。

「法令順守」「柔軟性」を持つてお客様より「信頼性」を勝ち取るべく、われわれは職業的専門家として助言・指導することを使命と考えている。この三つがわれわれの経営理念である。昨年、所内での忘年会で弊所代表よりこの経営理念の大事さの説明がなされた。特に目からうろこという話ではない。皆、それぞれ自分に落とし込んでくれているものと思われる。経営理念の大事さを改めて皆で共有する、皆が考える方向のブレが少なくなる、一年で大事な時間の一つである。われわれは、お客様の業績を現行の会計基

い違いが生じないよう正確に伝えることが、まずは大事な任務である。次に、何かを提案することが肝要であろう。経営理念があることにより、自然とわれわれは経営者の近くにいる存在として、経営者に知恵を授けることが任務となる。

世の中には数百万社の企業が存在すると言われている。経営理念を掲げている企業数は数知れないだろうが、名だたる企業に経営理念がないはずはないと推察する。なぜか。継続（ゴーイングコンサーン）に必須だからと考えた。

ピーター・ドラッカーは、経営の目的を「顧客の創造と、維持だ」と言っている。どんなにはやっている商品・サービスも、いずれその勢いは弱まる。商品寿命はここ最近ますます短くなってきたのではないだろうか。また経営者も例えば30歳で起業し30年経営すれば、事業承継の問題は考えざるを得ない。企業は継続する中で、幾つものこのような壁にぶつからざるを得ない。このとき、経